

指標名: 公共投資の動向(2013年10月)

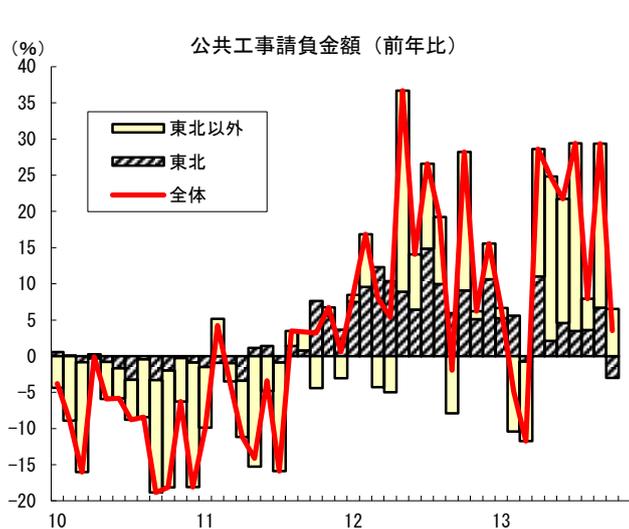
発表日2013年11月18日(月)

～公共投資は今後、景気の牽引役としての役目は期待できず～

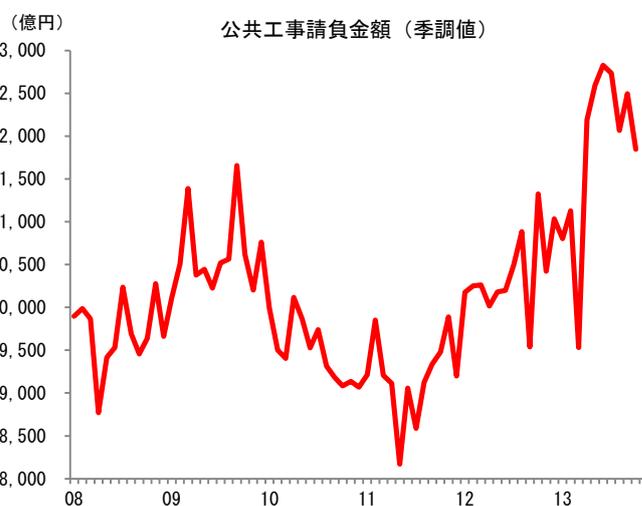
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

○公共工事請負金額はピークアウト

公共事業の発注段階の動向を示す統計である公共工事前払金保証統計(11月15日公表)によると、10月の公共工事請負金額は前年比+3.5%(9月:同+29.4%)と増加幅が縮小した。内訳をみると、東北が7ヶ月ぶりに前年比マイナスに転じていることに加え、東北以外も前年比プラス幅を縮小させている。当社作成の季節調整値でも、前月比▲5.2%(9月:同+3.6%)と減少している。請負金額は今年2月に成立した緊急経済対策を背景に高水準を保っているものの、このところは均してみると軟調に推移しており、同対策の押し上げ効果のピークが過ぎていることが読み取れる。



(出所)北海道建設業信用保証株式会社、東日本建設業保証株式会社、西日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(注)季節調整は第一生命経済研究所
(出所)北海道建設業信用保証株式会社、東日本建設業保証株式会社、西日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

○出来高は前年比で高い伸びが続くものの、公共投資は今後、景気の牽引役としての役目は期待できず

11月18日に国土交通省から発表された建設総合統計では、9月の公共工事出来高は前年比+26.7%(8月:同+24.3%)となった。緊急経済対策効果を背景に高い伸びが続いている。

公共工事出来高は工事の進捗段階の動向を表す統計であり、GDP統計における公的固定資本形成の基礎統計にもなっている。先日公表された13年7-9月期GDPをみると、民需項目が冴えない中、公共投資は緊急経済対策効果を背景に前期比+6.5%と高い伸びとなり、景気の牽引役となった。しかし、先行指標である請負金額の動向を見る限り、先行きは牽引役としての役目は期待し難いであろう。公共投資は10-12月期は勢いを落とし、14年1-3月期にも明確に前期比マイナスになるとみている。もっとも、13年度補正予算の効果が14年4-6月期以降に顕在化することで、公共投資の高水準自体は維持される見込みだ。14年度は①緊急経済対策効果の剥落による公共投資の大幅減と②消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減といった二つの景気下押し要因が重なるところであったが、13年度補正予算によりこのうち①の悪影響は緩和されることになる。歳出増に繋がる公共投資に頼ることは財政運営という面を考えれば必ずしも健全とは言えないが、補正予算によって14年度の景気後退リスクは低下したと言えよう。

公共工事出来高(前年比、%)

